

# 投光器 学習版

国労東海貨物協議会  
2012年6月10日 No.11  
発行責任者 鈴木 和巳

## 現在交渉中の「期末手当」についてお知らせします！

この間2回に亘り「期末手当」について学習してきました。現在、交渉真っ盛りの状況ですが会社の現時点での考えをお知らせします。



### こんな会社の回答に納得できますか？

#### ○会社の現時点の考え方（6/7現在）

- ・ 23年度決算で経常黒字を確保したが当期純利益は△5億であり金融機関からの指摘もある。
  - ・ 新年度に入り対前年は上回るが、対計画に対しては収入に10億円以上の乖離がある。
  - ・ 関連事業部門では前年を下回る計画となっている。
  - ・ 欧州危機や円高などの経済情勢から収入動向が不透明である。
  - ・ 今後も着実な収入確保に向け努力するが、経費削減にも努めなければならない。
- 以上のことを勘案したとき「一昨年度の実績は支給できる状況にない」としている。

### 若者よ！自分の未来を切り開く為に声を挙げよ！黙して改善はない！

#### ○国労は会社の回答に対し次のように考えています！

- ・ 当期純利益の赤字は法改正によるものであり、経常黒字を生み出したのは、まさしく現場で働く社員の努力であるとともに期末手当の削減等、人件費の削減が大きく関与している。社員への還元は当然である。
- ・ 収入が対前年を上回っている事実から、よもや前年（一昨年）を下回る回答は許されない。対計画で言えば、過去を振り返るときに、ほぼ計画を上回ったことがない事実から計画の立て方に問題がないのか？
- ・ 計画との収入乖離に対して誰も責任を取らずに社員に犠牲を転化しているのが実態である。
- ・ 関連事業を見れば計画段階で前年を下回ることは織り込み済みである。
- ・ 収入動向は不透明とはいえ、この間何年間もずっと社員は厳しい生活を強いられている。経常黒字を確保したのは社員の努力であり社員のモチベーションを上げる必要がある。
- ・ 人件費比率が30%を切っていることをみれば経費削減には人件費を含めることは許されない。



### いつの時代も若者の声が重要だ！

現在の青年の意識を一部では「湿った薪（乾けば薪として大きな火力を持つが現状では火が付いていない）」と例えています。労働法の改悪により非正規社員が増大し、同年代の多くが非正規で働いている現状に、自分は正規社員だからと、そこそこで満足して非正規の労働条件改善に対し興味が薄れている状況を言っていると思われます。自らの労働条件改善が非正規にも大きく影響を与えることを自覚し、今こそ時代を変えることができるのは若者だという自覚を持っていただきたいと思います。



国労はそんなあなたを応援します！